

いのち 生命の尊厳

いさか せいし
伊坂青司

人間の^{いのち}生命の尊厳について、二つの側面から考えてみたい。一つは生まれる前の〈生命〉であり、もう一つは生まれて後の〈いのち〉である。前者はまだ生まれていないという意味で生物的な生命であり、後者はすでにこの世に生まれた個体として社会的な^{いのち}いのちである。これら二つの側面から見て、生命は現代どのような状況に置かれているのであろうか。

まだ生まれていない生命は、現代医療の対象になることが少なくない。胎児は親の希望によって、産婦人科で出生前に診断されるようになっている。胎児に異常がないかどうか診断され、その結果次第で中絶の選択がなされることがある。つまり診断の結果によって、親は子どもを生むか生まないかの選択をするのである。日本の中絶件数は年間で約40万件とされている(実数はその3倍とも言われている)が、そのなかでも出生前診断による中絶の比率は上昇しつつある。「異常」な胎児は中絶され、そして「正常」な子どもが迎え入れられる。すなわち親は子どもの生命を生まれる前の段階で選別するのである。このような現代医療の現実から、子どもに対する親の意識もまた変化しつつある。

親は「正常」に生まれた子どもの^{いのち}いのちを、少子化時代のなかで大切に育てようとするであろう。しかし、貧富のますます二極化する格差社会のなかで、子どもが負け組になってほしくないという親の期待(あるいは親のエゴイズム)から、子どもはすでに幼児の段階で競争原理に巻き込まれるのである。どの幼稚園に入れるかが、次の段階である小学校での成績につながり、小学校の成績はそのまま、どの中学・高校に入れるかにつながる。首都圏で進行しつつある中

高一貫教育への対応で、どの私立学校に入れるか、逆算すればほぼ小学校の3～4年生段階で決まってしまうというのが、子どもの教育に賭ける親の大方の常識になっている。このような逆算は、幼児段階にまで及ぶのである。

このような教育競争の重圧のなかで、親は子どもに過度な期待をかけるだけ、期待から外れた子どもの価値は縮減される。期待に反する子どもは親によって虐待され、遺棄されることさえある。子どもの^{いのち}いのちの価値は、現代社会のこうした状況のなかで、どんなに軽んじられ、痛めつけられているのであろうか。他方で子どもは、親から見放される恐怖心から、親の期待に応えようと良い子を演じ、反抗するチャンスを失ってしまう。しかし親の期待に応えられずに冷たい視線にさらされ、あるいは決定的な言葉を投げつけられたとき、自分が親から愛されていなかったという失望感、親への憎しみと殺意に容易に転じるのである。

生命は、生まれる前の〈生命〉と生まれた後の〈いのち〉として、区別されるように見えながら、しかし現代社会のなかで実は深く連関し合っている。胎児をあらかじめ診断できるようになった医療技術によって、親は生まれてくる子どもの質を予想して、自らの意思で子どもの生命を選別する。競争・格差社会の現実が、子どもの生命を選別する親の意識に拍車をかける。こうして子どもの生命は、生まれる前から、そして生まれてからもまた、親と社会の選別意識のもとに置かれるのである。現代において〈生命の尊厳〉をいかに守るかは、子どもの^{いのち}生物的生命と社会的^{いのち}いのちの領域を^{いのち}通底する問題として、親と社会に課せられた課題なのである。

(外国語学部国際文化交流学科教授)

〈集合体〉意識の必要性を問う

やまき まさひこ
山木 真彦

生命の尊厳というタイトルで執筆を依頼された理由は、尊厳が毀損されやすい時代、世界になってしまった証拠だと思う。生命の尊厳は、個人から国家レベルに至るまで、様々な状態で損なわれている。子供から大人の社会まで横行するいじめ（間接的殺人である）、親殺し、子殺し、少年達によるホームレスの人達のなぶり殺し、国家レベルではテロ、人権侵害、内戦、児童労働などあらゆる形で人間の尊厳が葬り去られていることは一々言及しなくても皆知っている。知っていても問題が広範かつ多岐に亙り地球上を覆い尽くしている。「見たくない、知りたくない、知ったってどうしようもない」と市井の我々は大なり小なりの虚脱感に捕らわれている。政治家達が国連で議論しても、テロも内戦も個人の荒廃も進行を食い止められないのだから、まして庶民の我々に何が出来ようかと誰しも考える。考える以前に日々の各自の生活に追われ、視野狭窄を起こしている。それが我々の実情だ。何か根本的な人間観の修正が必要だ。人間は文明を創り、優れた芸術、遺産を遺し、我々を意味ある存在と信じて疑わない。しかし、月面に自分独り座って眺めるようにして人間を考えると、長生きしても百歳。漸く世間が仄かに見えてくる二十歳から数えて二十年で中年となり徐々に老化の坂を下り始める。それも無事故であればの話であり、人それぞれに運命がある。生まれてすぐ死んでしまう子供達、交通事故であつという間に亡くなる人達、諸々の病死。つまり各自の運命を全うせざるを得ないのであり、その点で自然界の生き物と全く同じだ。自然界で繰り返される生死同様、各人各様の運命により全員一人で死んでゆくのである。例外はない。肉体的には人間は脆弱である。月面という言葉を出したのは、立花隆著『宇宙からの帰還』（中央公論社1983年）の中にある国境は見えず、紛争地帯の砲火が見える、という宇宙飛行士たちの言葉が強く印象に残っているからだ。生殖によって生れ、死によって終わる自然の一部である我々だけが境界線を国と個人の間で認識した。そのボ

ーダーを捨てるべき時期なのではないだろうか。

死によって限定されている生命は一種の牢獄である。そして死は物凄く大変な苦痛を伴う。いつか必ず死ぬのに何故生まれてくるのか疑問に思わない日はない。見事な文明を継承するためだと誰かが言えば、私は疑問だ。喝采を浴びた人間の文化は必ず同時に破壊をもたらした。フォードが流れ作業を考案し、T型フォードが誕生した時は、偉業と讃えられた。しかし車は大量生産と大量消費、温暖化と毎日の交通事故を招いた。偉大なインシュタインの脳は原子爆弾の製造につながった。成功者が生まれれば必ずその下にピラミッド状に労働者階層ができ、貧富の格差はもはや文字通り天国と地獄だ。人間は何を継承しようとしているのか疑問だ。英知を継承する？これほど無意味な殺し合いを繰り返す英知を持たない種は自然界に人間だけだ。一人が一国の国家予算に匹敵する富を持つその同じ地上に、極貧状態の人々が毎秒死んでいる。ともすれば奢れる者は失敗者と彼らを嘲るが、社会が歪んでいるせいであり、飢える人、戦火で行き場を失った人々に何も責任はない。

行き着いた思ひは、人間は個人でなく、〈人間種〉という集合体だという考え方である。自他と考えるから無関心でいられる。人間を集合体だと思ひ、他者を傷つけることは自分の生涯の苦しみとなることに思いを致せば、他者をいかなる理由があろうとも傷めつけるのではなく、逆に他者に生命を分け与えることができる。建設的な提言をして終わろう。人間は美しい。心あるからである。一人一人が宇宙の宝だ。その美しさを毎秒見続けていたい。生命の尊厳が損なわれた状態に放置された他者を見ないでいることは自分の人間の尊厳を捨てることだ。もし運命のめぐり合わせでどこかに爆弾を投下したり、ナチスドイツがしたように生きた人々を焼却炉に押し入れる役が回ってきたら、自ら命を絶つのが尊厳死だと思う。混沌とした一触即発の世界を見つめて欲しい。そして、人を大切に渾身の力で愛して欲しい。ボーダーを越えて、地獄の状態にある人々を救う手立ては図書館の端末で検索すればいくつも見つかる。夏休みの読書として、ボーダを超える為の図書

（外国語学部英語非常勤講師）

■藤井恵美著『私のスウェーデンびいき』（朝日新聞社1988年）

■JRR トールキン著／猪熊葉子訳『ニグルの木の葉』

（『農夫ジャイルズの冒険』評論社2002年）

モザイク模様と遺伝子の話：生物の不思議について

あさくらのあき
朝倉史明

第一話 三毛猫

生物には実に様々なモザイク模様があります。そんな中から動物と植物の例を、お話しします。

三毛猫とよばれる猫がいます。あの、白、茶、黒の三色が入り交じったモザイク模様をした猫です。三毛猫のほとんどはメスです。この理由ですが、まず体毛を白ぶちにする遺伝子を持っていることが前提となるのですが、この遺伝子は性別とは関係のない染色体にあります。そして、体毛を茶にする遺伝子と黒にする遺伝子はX染色体にある対をなす遺伝子(これを対立遺伝子と呼びます)です。オスの性染色体構成はXYですから、どちらか一方の遺伝子しか持ちようがありません。また、白ぶちにする遺伝子は色素合成を抑制する遺伝子です。体が形作られていく途中から働き出すために、色素合成が起こる部分と起こらない部分が生じます。それ故に、オスは白と茶からなる茶ぶちか、白と黒からなる黒ぶちになります。一方、メスはXXですから、体毛を茶にする遺伝子と黒にする遺伝子の両方を持つ個体もいます。これが三毛猫になります。しかし、体を構成する細胞はどれも同じ細胞(受精卵)に由来するわけですから、全ての細胞に同じ遺伝子があるはずですが、それでは、三毛猫になるのは何故でしょうか。言い換えますと、白の部分、茶の部分、そして黒の部分と違ってくるのは何故でしょうか。これには、とても不思議な理由があります。実は1つの細胞に2本のX染色体が同居しても、片方のX染色体にある遺伝子の働きを抑えて働かなくするという仕組みがあります。このために、体毛を茶にする遺伝子のみが働く皮膚の部分と、体毛を黒にする遺伝子のみが働く皮膚の部分とが生じるのです。体のどの部分でどちらの遺伝子の働きが抑えられるかは全くの偶然によりますので、同じモザイク模様の三毛猫は生まれてきません。

第二話 朝顔

夏に咲く植物の代表として朝顔がありますが、朝顔は奈良時代に中国から日本に入ってきました。タネに下剤としての効果があるために、元々は薬草として用いられていました。江戸時代になり観賞用として楽しまれるようになりましたが、その当時は今と違って、変化朝顔(変わり咲き朝顔)が主に栽培されていました。変化朝顔とは花や葉の形などが一般のものとは比べて変わっている朝顔で、なかには朝顔に見えないようなものもあります。変化朝顔の中に、絞り模様の花を咲かせるものがあります。少し前置きが長くなりましたが、この花色のモザイク模様はどのようにして生じるのでしょうか。不思議な遺伝子によって、このモザイク模様も生じてきます。その遺伝子とは、動く遺伝子(これをトランスポゾンと呼びます)です。動く遺伝子はその名の通り、染色体のある場所から別の場所に移動するという性質を持っています。色素合成遺伝子の中に動く遺伝子が入り込んでいますと、色素合成遺伝子が壊れているために色素が合成されません。そのために普通は真白な花が咲きます。しかし、ある時この動く遺伝子が他の場所に移り、色素合成遺伝子がもとの正常な遺伝子に戻ります。すると、色素の合成が起こるようになり、花卉に色が着くようになります。花卉は多数の細胞できていますから、動く遺伝子が色素合成遺伝子の中から移動した細胞とその中に留まった細胞の2種類の細胞ができますと、色の着く部分と着かない部分ができ、絞り模様という花色のモザイク模様が生じるのです。

多くの生物でゲノム(全DNA情報)の解読が進められていますので、以前より生物について研究しやすくなりました。それでも未だに、よく見ると、身近な生物にさえ不思議が潜んでいます。これからどんなことがわかってくるのでしょうか。とても楽しみです。(工学部准教授)

ナルキッソスを映す「水」

しんばた やすひで
新畑 泰秀

I. バロック期の画家カラヴァッジョの代表作のひとつに、《ナルキッソス》(図1)と呼ばれている作品がある。画面に描かれているのは、地に座して静かに水鏡を見つめる若き青年。その美貌ゆえにニンフたちに愛されるも、己のみを愛して他人の愛は悉く拒絶した。素気無いナルキッソスの態度を多くの女が恨み、ある者は、神々にナルキッソス自身の恋も報われることのないようにと祈り、その願いは女神ネメシスに聞き入れられた。やがて、青年は狩猟の疲れを癒すべく泉で水を飲んでいたら、水面に映る自の像に魅入られ、憔悴し、やがて息絶えた。美しき青年の死を悼んだニンフたちは葬儀の準備するも亡骸は消え、かわりに水仙の花が咲いていた、という物語。古代の詩人オウィディウスの『変身物語』に記されたこの挿話を、画家は、劇場を想わせる漆黒の闇に鮮烈な照明を水辺の主人公に当てて浮かび上がらせて描いた。ここで、ナルキッソスの姿を映す「水」は、単に鏡面としての役割を果たすのみならず、静謐で清廉な姿を装いつつも、その深遠に見せる蠱惑的な表情の中に、人間の「生」を左右する、畏怖すべき存在であることを厳然と示している。

II. 今春、筆者は、横浜美術館で開催された「水の情景——モネ、大観から現代まで」と題する展覧会の企画に携わった。この展覧会は、近現代の美術作品にあらわされた「水の情景」をあつめて提示したものであったが、これを企画する契機のひとつとして、カラヴァッジョによるナルキッソスを映す「水」があった。それは、この絵に描かれた「水」が、単なる画中のモチーフに留まらず、イメージとしても、それが暗示するものについても、強い存在感を示していることに強く魅かれたにはほかならない。あいにくイタリアの宝を展覧会に借用するには至らなかったが、この絵があらわす水の存在感を、展覧会によって伝えたい、と思ったのである。

展覧会のプロローグには、韓国の金昌烈による、



図1

あたかも画布の表上を水が滴り落ちている、と見紛う絵が展示され、そのすぐ脇には神奈川大学図書館が所蔵する『ブリタニカ英語辞典』(1730年刊)とディドロ・ダランベールによる『百科全書』(1751-72年刊)という、啓蒙思想を代表する参考書の「水」の項目を提示することによって、鑑賞者をタブラサな状態から、「水」についてなんらかの思考することを促すことを企図した。ここで思考の準備を整えた鑑賞者は、続く「揺蕩う」「動く」「満ちる」という3つのセクションで、クロード・モネ、横山大観から現代に至る膨大な「水の情景」を巡って、水を芸術家の目を通してあらためて視覚体験するとともに、その存在に様々な思いを巡らせてもらう仕組みとなっていた。自然の所々に見える多様な水の動き——溪流のせせらぎ、流れ落ちる瀑布、風ぐ海、荒れる海——に芸術家たちは、時に癒され、時に翻弄されながらもその姿に魅了されてきた。その結果としてある芸術作品を、われわれは、単に時代を追うでもなく、時代と地域の壁を取り払って提示することにより、普遍的

な美の対象としてある「水の情景」を展示室の中に創造しようと試みたのである。

これら3つセクションが、美的対象としてある「水」の表現の提示の場であったとするならば、エピローグに用意した「水と人」のセクションでは、16世紀から19世紀にかけて制作された、古代神話や聖書に基づく西洋版画、20世紀を代表させる戦争の記録写真など、過去と現在の作品を混在させて提示することにより、単なる癒しや畏怖の対象としての「水」のイメージを超えて、古来、「水」という物質に人が託してきた、多様で深長な意味に触れ、鑑賞者をより深い思考に導こうとするものであった。ここで筆者は、16、17世紀の書籍を2点、すなわち『変身物語』の挿し絵本と称するものを展示した。ローマ時代の詩人オウィディウスによる『変身物語』は、過去と現在を問わず、世にあまねく知られた、愛が故に死して転身する人間の物語。古代にあまねく愛された後、キリスト教倫理と相反する要素をもっていたにもかかわらず、中世を聖書釈義学の立場から寓意的、教訓的、あるいは預型論的に解釈されることによって生き永らえ、西洋の文芸に計り知れない影響を与えてきた。書物としては、写本が11世紀から現れはじめ、ルネサンス期にその人気が高まり、16世紀に挿し絵本としての体裁を成した。1557年にリヨンで出版されたベルナル・サロモンが木版による挿し絵を描いた版は、以後、大流行する契機となった重要作品と目されているが、展覧会に出品された1559年版は、これと同じ版が使用されているものであった※。そして、挿し絵本にあらわされた図像は、テキストとともにその突出したイメージの完成度ゆえに、後の西洋各地で出版された版の見本となるとともに、絵画制作の図像的な教科書となった。そして、この物語の視覚的図像が、具体的な姿をもって世に流布し、かつ一般的なイメージとして定着に際して、多大な役割を果たしたと言われる。

III. 『変身物語』は、輪廻転生を主題とし、「人」と「花」の双方に深く関係する「水」は、しばしば変身をつかさどるキーワードとして扱われている。たとえば、双生のカウノスとの禁忌の愛がゆえに泉に変身したビュプリス、海の妖精ガラテアとの抱擁がポリュフェモスの逆鱗に触れて落命し、

川に変身したアキス、中でも水面に映る自己の姿に恋い焦がれて憔悴し、水仙へと変身したナルキッソスの挿話はもっとも知られた物語であり、かつ知られた図像であろう。16世紀末から17世紀の前半にかけて、西洋絵画の黄金時代を形成した画家たちは『変身物語』に想を得た作品を幾度も描いているが、中でもナルキッソスを描いたカラヴァッジョの絵は、最も有名なもののひとつであろう。美術史的研究において、図像的典拠のひとつとして、挿し絵本は欠かせないものとしてあることは疑いない。これらにより、西洋人の輪廻転生のアイデアは、明確なイメージをもって人々の心の中に息衝くことになるのである。カラヴァッジョの絵画に連なる、小さく質素な挿し絵本の中に描かれている「水」(図2)は、人間の「生」をつかさどる重要な役どころを、然りげに、しかし厳然と演じており、それは「人と水」という深遠な命題を問うている。その表現は、展覧会の最後に展示した照屋勇賢の作品——遠路沖縄から運び込まれた3トンにおよぶ死滅した珊瑚を敷き詰めたインスタレーション——が問う、人間と水を含む自然環境との共存、という命題と同等なものと感じさせられた。(横浜美術館主任学芸員)

※ガブリエレ・シメオネによる『オウィディウスの「変身物語」』(1559年、日本大学学術情報センター蔵) Gabriele Simeoni, *La vita et metamorfoseo d'Ovidio, figurato & abbrevuiato in forma d'epigrammi...*, engravings by Bernard Salomon, Lione: Per Giovanni di Tornese, 1559.

図1：カラヴァッジョ《ナルキッソス》1595年頃、ローマ国立美術館

図2：ガブリエレ・シメオネ『オウィディウスの「変身物語」』より「ナルキッソス」、1559年、日本大学総合学術情報センター蔵

Narcisso s'innamora di se stesso,
& diventa vn fiore. 46



図2

本学の貴重書紹介 (10)

パチョーリ『スママ』

初版 1494年

Pacioli, Fra Luca. ca.1445-1517

Summa de Arithmetica Geometria Proportioni [et] Proportionalita ... / [Fra Luca Pacioli]. -- [Venezia : Paganino de Paganini, 1494]. -- [8], 224, 76 leaves ; 33 cm.-- Title on cover: Lucas de Burgo Summa de Arithmetica etc. Unnumbered leaves: 52, 11. Leaves 6, 13, 14, 15, 20, 23, 35, 45, 167, 211, 212, 22, 33, 45 incorrectly numbered as 9, 15, 15, 16, 10, 24, 34, 46, 168, 981, 981, 19, 40, 44, respectively. Half calf.

『スママ』の著者、ルカ・パチョーリは、1445年頃にイタリア中部トスカーナの地方の小都市のボルゴ・サン・セポルクロに生れた。1460年頃、15歳の時に遠近法の理論家で画家、また数学者でもあったピエロ・デラ・フランチェスコに出会い、彼から絵画と数学を学んだ。フランチェスコの芸術上のパトロン（援助者）であった地元領主のウルビーノ公フェデリコ・ダ・モンテフェルトロ（1422-1482）はパチョーリの才能を認め、彼にも援助を行った。1475年、フランチェスコ修道会の修道僧になったパチョーリは1477年以降、ペルージャ、フィレンツェ、ミラノ、ピサ、ナポリ、ポローニヤの諸大学で数学者として教鞭をとった。この間、1497年にはミラノ公ルドヴィーコ・スフォルツアの宮廷に招かれ、そこでレオナルド・ダ・ヴィンチと出会い、親交を深めた。1514年には教皇レオ10世の招きでローマ大学教授に就任している。

『スママ(Summa)』は、略称で、中世学術上の大全、広義では体系・総説・全書を意味し、正しくは『数学大全』、『算術、幾何、比及び比例の総覧』などと言われている。初版は1494年、ヴェネツィアの印刷業者パガニーニの工房で印刷された。本学所蔵の初版、前付第1葉（リーフまたは紙葉とも言い、表裏で2頁、表に紙葉番号が付与されている）裏面の上段には鉛筆書きでアメリカの会計学の創始者の一人で、名著『監査』*Auditing Theory and Practice*, New York : Ronald Press, c1912.の著者、Robert H. Montgomeryの名が記されている。装丁は同時代（contemporary）ではなく、近代の改装、トリノのG. Pacchiottiの手によるもので

あろう。本書は数学について記述されたヨーロッパで最初の印刷本として、また1500年以前の初期刊本であることから、インキュナブラ（原義はオムツで揺籃期本）としても位置づけられている。15世紀初めに印刷さ



『スママ』初版本文冒頭葉

れたほとんどの書物は、当時の學術語のラテン語で記述されていたが、ルネサンス期、人文主義的知識人ダンテ、ボッカチオ、ペトルカなどの影響を受けたパチョーリは、日常言語としてのイタリア語、しかもヴェネツィア方言の庶民の言葉で本書を記述している。彼がそうしたのは、算術と簿記についての資料をイタリア庶民に紹介し、彼らの「生活改善」に役立てようとしたからだと言う研究者の指摘がある。ここからパチョーリが「理論を実地に移す最初の実験者」と呼ばれている（パチョーリ著本田耕一訳『パチョーリ簿記論』現代書館1975年195頁）。簿記学の授業で、会計の父としてパチョーリの名があげられるのは、13世紀末にフィレンツェの商人が用いていた複式簿記について、そのヴェネツィア方式の論理的記述が『スママ』で初めて行われているからである。

本文300葉（600頁）、前付8葉（16頁）。本文が二編からなり、第一篇「算術」224葉（448頁）、第二編「幾何」76葉（152頁）である。十数か所に葉番号の誤ちが認められる。イタリアの数学史家B.ボンコンパーニの『スママ』研究を整理した東田全義によれば初版には3種の変形^{ヴァリエーション}があること、初版は300部くらい、世界で現存は99部だと推定される（『パチョーリ『スママ』の書誌学上の謎』『ピヌス』37・雄松堂・1994年15頁以下）。そのうちの10部を日本の大学図書館（含む本学）10館が所蔵している（雪嶋宏一『『スママ』の書誌学的価値』毛利健三編『イタリア・ルネサンスの商人に宛てた^{おくりもの}賜物』専修大学図書館・2002年17頁）。見返しと遊び紙それぞれに大小の透かし模様が、商業の神の象徴である蛇を中心にほどこされている。透かし模様の検証についてはこれからの課題だと思う。本学図書館では1523年にトスコラーノで出版された第2版（正確には第二刷。東田「上掲論文」参照）も所蔵している。

（総合サービス課 吉田 隆）

図書館の利用案内

◎夏季休業期間中の開館・開室日

横浜図書館：月曜日から土曜日の9時30分から18時
 平塚図書館：月曜日から金曜日の9時10分から16時50分
 休館・休室日：日曜日・祝日及び8月13日～16日の一斉
 休業日(但し平塚図書館は土曜日休室)

◎夏季休業長期貸出のお知らせ

対 象：学部生（1～4年次生）・科目等履修生
 貸出期間：2007年7月13日(金)～9月11日(火)
 冊 数：10冊
 貸出期限日：2007年9月25日(火)

◎県下高校生夏季休業期間中の図書館開放について

申し込み窓口：横浜図書館 1階・平塚図書室カウンター
 ・横浜図書館（*休館日は除く）
 期間：2007年8月3日(金)～9月20日(木)
 ・平塚図書室（*休室日は除く）
 期間：2007年8月3日(金)～8月31日(金)

◎一般公開休止のお知らせ

学期末試験期のため下記の期間、一般公開を休止します。

休止期間：7月9日(月)～8月2日(木)

窓ぎわにて

私達は、毎日の生活の中で必ず一度は死の知らせに接している。それは、テレビから流れるニュースであったり新聞紙面であったり、時にごく身近にも。人ひとりの死を多くの国で多くの人が悼むこともあれば、“自爆テロで〇〇人犠牲”という数行でその知らせが終わることもある。ペットロス症候群といわれる心の痛手は、亡くなった命が人間以外のものであってもかけがえのない大きなものであることをおしえてくれる。私もかつて、家族と一緒に家族同様に犬と暮らし、見送ったことがある。大事な家族の最後の様子を守りながら、この子は最期まで一生懸命生きようとしているのだ、私たちの家族として存在しつづけようと頑張っているのだということを強く強く感じた。それ以後、あらゆる生き物と同様に、人間も生きることそのものが使命なのだと思うようになった。生き様云々ではなく、生きることそのものが生まれてきた目的なのだと確信するようになった。

(M.H)

Lib.Calendar

7月	8月	07	9月	10月
日	★ 水	1 土	★ 月	
月	木 学期末試験終了	2 日 休館・休室	火	
火	金 一般公開再開	3 月	水	
水	土	★ 4 火	木	
木	日 休館・休室	5 水	金	
金	月	6 木	土	
土	火	7 金	日	★
日	水	8 土	★ 月 体育の日	★
月 一般公開休止 8月2日まで	木	9 日 休館・休室	火	
火	金	10 月	水	
水	土	★ 11 火	木	
木	日 休館・休室	12 水	金	
金 夏季長期貸出開始	月 一斉休業休館・休室	13 木	土	
土 前期授業終了	火 一斉休業休館・休室	14 金	日	★
日	水 一斉休業休館・休室	15 土	★ 月	
月 海の記念日 授業日	木 一斉休業休館・休室	16 日 休館・休室	火	
火	金	17 月 敬老の日 休館・休室	水	
水	土	★ 18 火	木	
木	日 休館・休室	19 水	金	
金 学期末試験開始	月	20 木	土	
土	火	21 金 後期授業開始	日	★
日	水	22 土	月	
月	木	23 日 秋分の日	火	
火	金	24 月 振替休日 授業日	水	
水	土	★ 25 火 長期貸出返却期限	木	
木	日 休館・休室	26 水	金	
金	月	27 木	土	
土	火	28 金	日	★
日	★ 水	29 土	月	
月	木	30 日	火	
火	金	31	水	

開館・開室日 ★平塚のみ休業日